

「がんばろう、なとり」 No. 5

東日本大震災 名取市支援活動報告

2011.4.16 / 17

名取市を訪問して 早 一週間・・・

週末は **学び** の2日間となりました。

16日

午前中、避難所を回り、午後からは仙台市の図書館を視察してきました。

仙台市内の図書館も地震による被害が大きく、建物自体にダメージを受けており、本も書架から落下して整理が必要なので、開館するまでには一定の時間を要する状況のようです。

しかし、サービスを待っている利用者に僅かな冊数でもなんとか届けたいという気持ちが、青空の下での移動図書館（バス）や、ブックトラック（本を運搬する道具）を利用した臨時図書館開設の様子から感じ取ることができました。そこでは、ハンディ - スキャナー（資料情報のバーコード読み取り機）が活躍しており、災害が生じた際に図書館の機能をいち早く復旧するためのグッズの活用方法などについて、視察を通して勉強することができました。



建物が危険で入れないため、
玄関先で臨時開館する「若林図書館」



被害の状況を写真で公開、利用者登録の相談も実施している「仙台市民図書館」



「避難所担当職員と物資の確認作業に同行」



昨日訪問した高館小学校へ再び行ってきましたが、そこでは数名の学生ボランティアが子ども達とかかわって活動していました。

また、移動動物園もやってきて、ウサギやモルモットなど小動物と触れ合ったり、ヘビを首に巻きつけたりして楽しんでいる子ども達の笑顔は輝いていました。動物や植物など身近にある様々なものからパワーをもらい、子ども達は元気になっていくものなのだと感じさせられました。



「避難所（名取市第1中学校）へ エプロンを届けました」



子供と遊ぶ学生ボランティア



担当の方が不在で、その娘さんに皆さんの分も手渡してきました

こちらの避難場所では、日中、大人の数が少なくなってきた感じが感じられ、避難している方々が自分達の生活を確立していくための活動を模索し始めていることが窺われました。

避難所で生活する方は、「間もなく学校が始まる。特に、子供のいる家族は、親戚を頼ったり、アパートを借りるなどして避難所を出ていくことが多くなってきている」と話していました。

今後、被災されている方々に対してどのような支援が必要であるのかなど、具体的な方法について考えるべき時がきていることを改めて感じさせられました。

また、東北福祉大学の学生が子ども達と遊んであげるボランティアを行っていました。随所で大学の取組による学生ボランティアが活躍している様子を目にします。

17日

今日は、一日、お休みをいただき

ました。休みを利用して、仙台空港、岩沼市、亘理町などの被災状況を視察しました。こちらに来てすぐに、閑上（ゆりあげ）地区を視察し、被害の大きさや悲惨さを目の当たりにして、状況を理解したつもりになっていましたが、改めてショックを受けてまいりました。



すぐ奥に見えるのが、一部再開した仙台空港。自然災害の恐ろしさと、それに対してくじけずに復興していこうとする人のたくましさとを同時に感じさせます。しかし、言葉で言うほど簡単ではないことも感じさせられます。

編集後記

避難所の入り口横に、自転車が置かれていることがあります。子供の多い避難所には、子供用の自転車も用意されています。

右の写真は郵便局ではありません。ある避難所に郵便配達用の赤い自転車が置かれていたので、珍しい光景だと思い記録に残しました。

（追伸）ボランティアの方へのおもてなしの話題をテレビで見ました。実は我々も、土曜日に名取市内のお店で昼食を食べた際、お代は結構ですと言われ、おもてなしを受けてしまいました。誠に恐縮です。

